

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名(注1)</b>	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b> ネガティブをポジティブに 町内会リフレーミング！！	<b>自治体名</b> 大阪市東淀川区
<b>チームがつけたアイデア名(公開)(注2)</b>	子供の遊び場を増やす		

(注1)地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2)アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

<b>チーム名(公開)</b>	わたしたち		
<b>チーム属性(公開)</b>	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 <span style="color: red;">ドロップダウン選択→</span>	2. 学生	
<b>チームメンバー数(公開)</b>	3 名		
<b>代表者(公開)</b>	川田稀心		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### ＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

#### ＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名 ([メンバー一覧ページ](#) を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について:  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

#### ＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

#### ＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。 将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

騒音や禁止事項がなく自由に遊ぶ事ができる遊び場を増やす

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

東淀川区内の大学を活用して、小学生が主体的に遊びや学びに取り組める活動を定期的に開催することを提案します。この活動は、大学生や保護者が協力し、子どもたちの成長と地域のコミュニティ形成を目的としています。

<だれが、だれに対して行うのか>

・主体(実施者):大学生(ボランティアサークルや授業の一環)、大学教職員(監修・支援)

・対象(受益者):東淀川区の小学生(主に1~4年生)とその保護者

<いつ、どこで行うのか>

いつ:土日を利用した月2回の開催(保護者の都合に合わせた午前・午後の時間帯)

どこで:東淀川区内の大学の体育館や広場、空き教室

具体的な内容として、スポーツや工作などの活動を行い、子どもたちが自由に体を動かしたり創作活動を楽しんだりできる環境を整えます。例えば、親子で対戦するバレーボール大会や廃材を利用した工作教室など、多様な体験を提供します。

保護者にとっては、子どもを安心して預けられる場を提供するだけでなく、他の保護者や大学生と交流できる場にもなります。InstagramやLINEの公式アカウントを通じて事前予約を受け付けるとともに、保護者からの質問や不安の相談にも対応します。

# 公式アカウント はじめました！



イベント情報や  
キャンペーンなど  
お得な情報を配信！



友だち登録で限定クーポンGET!

出典：[https://www.canva.com/ja\\_jp/templates/s/account/](https://www.canva.com/ja_jp/templates/s/account/)

## <具体的な進行例>

土曜日の午前中に、大学の体育館で運動大会が開催します。子どもたちは大学生がリーダーとなりチームに分かれ、ゲームを楽しむ中で運動能力や協調性を育みます。親たちは見学や応援を通じて他の保護者と交流を深めることができます。午後には大学の空き教室で工作教室を実施し、子どもたちは大学生の指導を受けながら、廃材を使った創作活動に集中します。

また、保護者が主体的に関与できる場も設け、例えばプログラム内容の提案や運営の一部に参加する機会を提供します。これにより、活動がより地域に根差したものとなり、保護者自身が安心感を持ちながら取り組むことができます。

安全対策として、1人の子どもに対して2人の大学生を配置し、緊急時には大学教職員が対応できる体制を整えます。費用については、活動に必要な材料費や運営費を大学、自治体、地域企業が共同で負担する仕組みを検討します。

このアイデアを通じて、子どもたちが自由に遊べる場を増やすだけでなく、親子や地域のつながりを深め、東淀川区全体の活性化を目指します。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

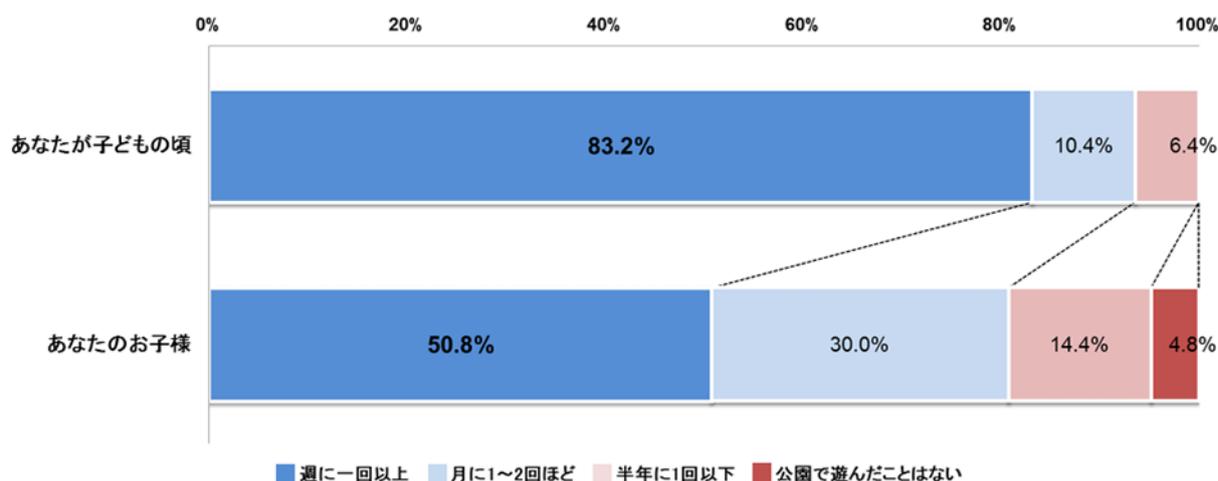
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

### ○遊び場の減少による子供たちへの影響

近年、子どもが公園で遊ぶ機会が減少していることが問題視されています。

Q. あなたが子どもの頃、公園で遊んでいた頻度はどのくらいですか。また、あなたのお子様は公園で遊ぶ頻度はどのくらいですか。

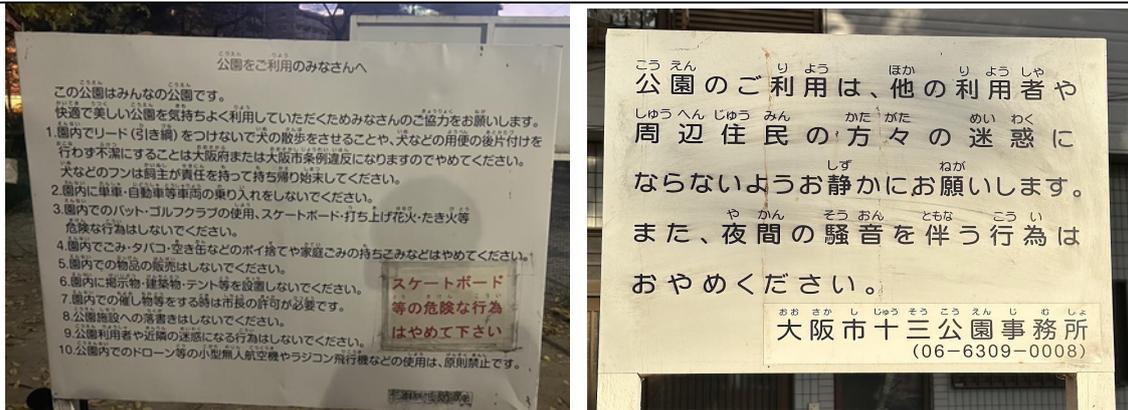


出典：株式会社ボーンランド「親世代の約7割「昔より規制が増え、遊具が減った」」2017年4月27日報道発表資料 (<https://www.bornelund.co.jp/contents/uploads/sites/2/2017/04/d9d41f0cb72b4d470ee07db1f6a68c60.pdf>)

その理由には、騒音問題や禁止事項の増加、遊具の減少、安全性の懸念、共働き家庭の増加などが挙げられます。あなたは公園で遊ぶことは、子どもの成長にとって大事だと思いますか。というアンケートにはおよそ9割の人がとてもそう思う。どちらかと言えばそう思うと回答しています。東淀川区では78ヶ所の公園がありますが、禁止事項の増加や近隣住民とのトラブルが原因で利用率が低下している公園も少なくありません。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）



（撮影者：植田）

### ○既存の取り組み事例の効果

「まちなね浜甲子園預かり station」では、子どもを安全に預けられる場を提供することで、親の安心感を高め、地域コミュニティの活性化に成功しています。この施設では、保育士が子どもと一緒に過ごし、親が用事を済ませる間、子どもたちに安全な環境で遊びや学びを提供しています。この取り組みにより、親子間や地域住民同士の交流が増え、家庭内外の負担軽減にもつながっています。



出典：<https://machinone-hamaco.org/event/10063/>

同様のモデルを大学内で展開することで、地域の課題解決に貢献しつつ、大学生にとっても地域活動への関与を促す有意義な経験を提供できます。

### ○東淀川区特有の課題

東淀川区では、公園での騒音問題や禁止事項の影響で、親子が安心して利用できる場所が減少しています。また、共働き世帯の増加により、子どもを見守る時間が十分に確保できない家庭も多いと考えられます（総務省「子育て家庭に関する調査」）。このような背景から、地域内で親子が自由に活動できる場を提供することは、東淀川区の子育て支援や地域のつながりの強化において重要です。

### (3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

<アイデア実現の流れ>

#### 【1. 実現主体】

主要主体: 大学の学生団体(ボランティアサークル、授業プロジェクト)  
協力団体: 大学教職員、地域保護者、東淀川区役所  
支援団体: 地域企業(廃材提供・費用支援)、NPO 法人

#### 【2. 必要資源】

学生(10~15人/回)、教職員(1~2人/回)、保護者、専門家(必要時)  
大学の空き教室や道具類 → 部活動やサークル活動の方々との連携

#### 【3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス】

○開始までの準備期間(6か月)

1. 1~2か月目: 大学生団体と協力体制の構築。
2. 3~4か月目: 活動内容の具体化(プログラムの企画、資材の調達)、安全管理マニュアルの作成。
3. 5~6か月目: 試験的なイベントの実施(小規模の親子交流会)で問題点を洗い出し、改善策を講じる。

○本格実施期(1年間)

- ・月1回、土日にプログラムを実施。東淀川区内の大学において交代で開催。
- ・活動内容は子どもの興味や保護者の意見を反映しながら調整。
- ・Instagramを活用して広報や参加者予約を行い、参加者数を増やす。
- ・評価・改善期間(次年度への引き継ぎ)
- ・実施から半年後、保護者や参加者からのアンケートを実施。
- ・活動内容や運営体制を振り返り、次年度に向けた改善計画を策定。

#### 【4. 制度的制約と解決策】

- ・安全管理: 子どもが大学内で過ごす際の保険加入や責任の所在を明確化するため、自治体や大学との連携を強化。
- ・費用負担: 長期的な運営のため、地域企業や自治体との協力体制を構築し、費用を分担。
- ・施設利用: 大学施設を借用するため、大学内の関連部署と調整し、教育的意義をアピールして承認を得る。

このプロジェクトは、地域の課題解決と大学の地域貢献を両立させる取り組みです。大学生主体の活動と地域の協力によって、低コストで持続可能な形で実現可能です。また、自治体や地域企業の支援を得ることで、地域全体のつながりを深め、課題解決に向けた持続的な取り組みにつながります。